

Tochigi Agricultural Experiment and Research Plan

栃木県 農業試験研究 推進計画

2021

▽
2025年度

～技術で伸ばす栃木の農業～



令和3(2021)年3月
栃木県

はじめに

本県農業は、肥沃な農地や豊富な水資源、大消費地である首都圏に近い地理的優位性、農業者の高い技術力などの強みを生かして、園芸や畜産を中心とした収益性の高い生産構造へと転換が進んでいます。

こうした中、試験研究においては、これまで、オリジナル品種の開発をはじめ、収量・品質の向上や省力化、環境負荷低減など様々なニーズに応じた技術開発を進めることで、農業発展の基礎を支えるとともに、本県のブランド力向上に大きく貢献してきました。

一方、農業・農村を取り巻く情勢は、農業者の減少や高齢化をはじめ、少子高齢化等に伴う国内の食市場の縮小、気候変動や新型コロナウイルス感染症への対応など様々な課題に直面しており、本県農業を持続的に発展させていくためには、こうした課題の解決に向けた試験研究の役割がこれまで以上に重要になると考えています。

このため、栃木県農業振興計画『とちぎ農業未来創生プラン』においては、基本目標である「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」の実現に向け、特に重点的に取り組む施策として、“園芸大国とちぎづくり”の加速化やA I・I o Tなどデジタル技術の活用促進に加え、“次代を見据えた研究開発の推進”を位置づけたところであり、その研究開発を戦略的に進めるため、「栃木県農業試験研究推進計画」を策定しました。

この計画では、10年後を見据え、今後5か年で取り組むべき重点分野の研究課題を絞り込み、本県の顔となるオリジナル品種の開発をはじめ、気候変動やS D G s への対応など新たな時代に適応した新技術の開発等を進めて参ります。

本県農業の持続的な発展に向け、本計画を着実に推進することで農業のイノベーションを加速していきたいと考えておりますので、県民をはじめ関係者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

令和3(2021)年3月

1 策定の趣旨

この計画は、本県農政部の試験研究機関(水産試験場、農業試験場、県央家畜保健衛生所、畜産酪農研究センター)における試験研究を効果的・効率的・戦略的に推進するため、中長期的な展望に立って策定したものです。

2 位置づけ

この計画は、栃木県農業振興計画『とちぎ農業未来創生プラン』に掲げた本県農業・農村の将来像の実現に向けて、試験研究の基本目標や推進方策、重点的に取り組む研究課題を明らかにしたものです。

3 計画期間

この計画は、10年後を展望しつつ、令和3(2021)年度を初年度として令和7(2025)年度を目標年次とする5か年計画です。

第1章 試験研究をめぐる情勢	1
第2章 試験研究の基本方針	5
1 基本目標	5
2 重点テーマ	6
3 推進方策	7
第3章 試験研究課題	10
1 栃木のブランド力を高める農産物の開発	11
1-1 多様な需要に対応した“とちぎオリジナル品種”の開発	
1-2 生産性を効率的・飛躍的に向上させるいちご新品種の開発	
2 気候変動をはじめとする環境変化に適応した生産技術の開発	14
2-1 気候変動に対応した新品種・新技術の開発	
2-2 環境負荷を低減する生産技術の確立	
2-3 農業情勢や生産環境の変化に対応した総合的な病害虫防除技術の確立	
2-4 環境変化に対応した持続性の高い畜産経営の確立	
3 生産力の向上や省力化を実現する革新的な技術の開発	18
3-1 省力・高収益を実現できる次世代型生産モデルの開発	
3-2 園芸生産の戦略的拡大を実現する技術の開発	
3-3 生産性・収益性を向上させる次世代型家畜生産管理技術の確立	
4 農産物の新たな価値を創出する技術の開発	21
4-1 輸出・加工・業務用需要等に対応した作物生産技術の開発	
4-2 多様なニーズに対応した畜産物の生産技術の開発	
4-3 収益性向上を目指した水産物の養殖技術の確立	
5 地域の活力や魅力向上につながる技術の開発	24
5-1 水田を最大限活用した高度生産システムの確立	
5-2 家畜が持つ特徴や能力を最大限に生かす分析・管理技術の開発	
5-3 畜産物の安全・安心及び生産性向上のための衛生対策の確立	
5-4 地域の水産資源を守り生かす技術の開発	
部門・分野別の主な研究課題	28
参考資料	33